

第1章 各市町の現状と課題

1. 各市町の現状

1-1 位置と地勢

本圏域は、岐阜県の南部、濃尾平野の北部に位置し、南は木曾川を隔てて愛知県一宮市、江南市、扶桑町、犬山市、北部と東部は、標高200～300メートルの山を境にして関市、坂祝町、西は岐阜市、南西部は笠松町、岐南町に隣接し、総面積は87.77 km²、現在人口は約14.8万人です。

交通面では、東海北陸自動車道の岐阜各務原ICのほか一宮木曾川ICに近く、国道21号、JR高山本線および名鉄各務原線が東西に走り、主要地方道川島三輪線が南北を縦断して基幹交通網を形成しています。

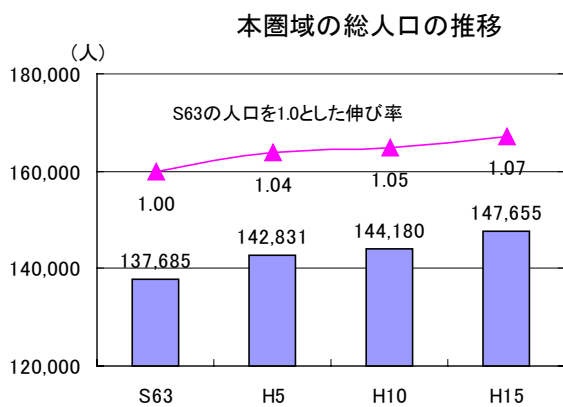
本圏域は、航空自衛隊岐阜基地に関連した航空機や自動車産業、織物業や燃糸業などの繊維産業、薬品製造業等を中心に発展してきました。近年では「テクノプラザ」「(財)岐阜県国際バイオ研究所」「自然共生研究センター」「河川環境楽園」「岐阜県科学技術振興センター」など、国や県の研究・交流拠点となる施設が整備され、IT・VR技術・ロボット技術・バイオ・エコロジーをキーワードとした産業の高度化・情報化や産学官の連携を推進しています。

1-2 人口・産業

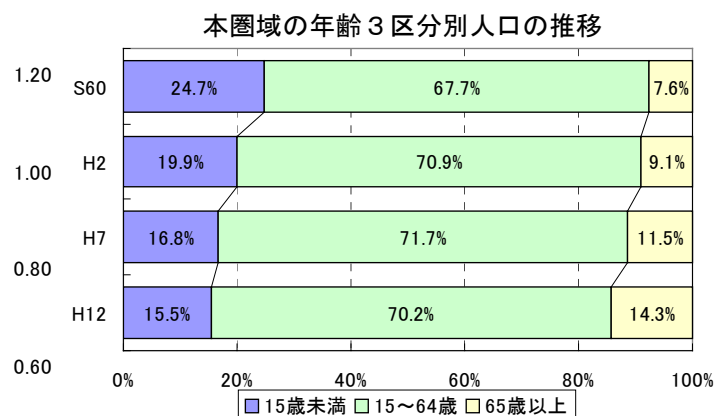
1-2-1 人口

平成15年における人口は約14.8万人で、平成10年(5年前)に比べて3,475人の増加となっています。昭和63年の人口を1.0とした人口の伸び率をみると、平成15年度において1.07倍であり、人口増は微増傾向を示しています。

また、国勢調査結果による年齢別人口の割合をみると、平成12年の年少人口割合15.5%(0～14歳)、生産人口割合70.2%(15～64歳)、老年人口割合14.3%(65歳以上)となっています。昭和60年と比べると、年少人口割合は9.2ポイント減少し、老年人口割合は6.7%増加しており、少子高齢化が進行していることが確認できます。



資料: 住民基本台帳・外国人登録原票



資料: 国勢調査

1-2-2 産業構造

【産業構造】

平成 12 年における本圏域の就業人口は約 7.3 万人で、産業別の構成は、第 1 次産業 1.9%、第 2 次産業 39.0%、第 3 次産業 59.0%となっており、第 3 次産業が最も高くなっています。

また、経年変化をみると、第 3 次産業就業人口の伸びが高く、第 1 次・第 2 次産業の衰退傾向がうかがえます。

【商業】

平成 14 年における商店数は 1,422 店、従業者数は 10,247 人、年間商品販売額は 257,437 百万円となっています。

平成 3 年と比べると、従業者数・年間商品販売額は増加傾向にありますが、商店数については減少傾向にあるといえます。

【工業】

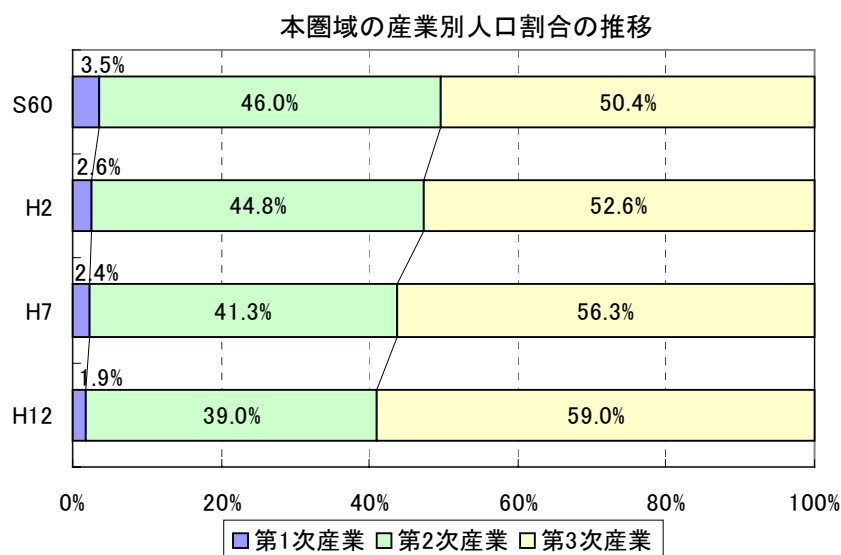
平成 14 年における事業所数は 1,273 事業所、従業者数は 19,372 人、年間製造品出荷額等は 521,790 百万円となっています。

平成 5 年と比べると、事業所数・従業者数・製造品出荷額等とともに減少傾向にあり、厳しい経済状況にあることがうかがえます。

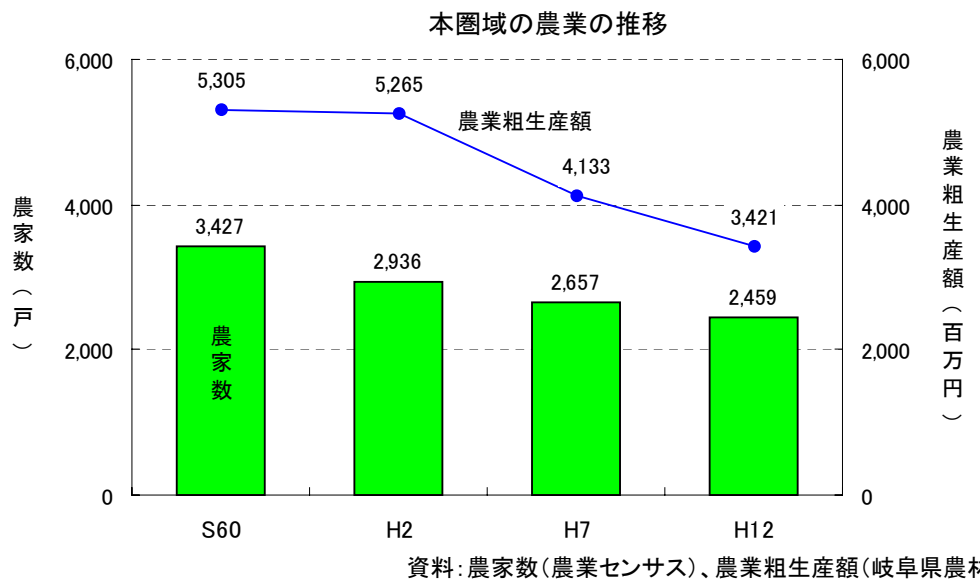
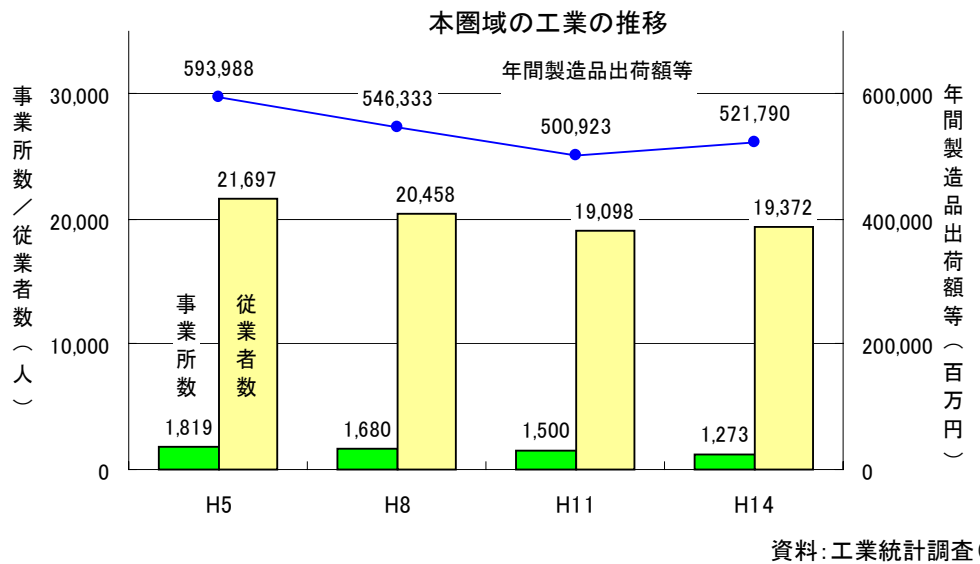
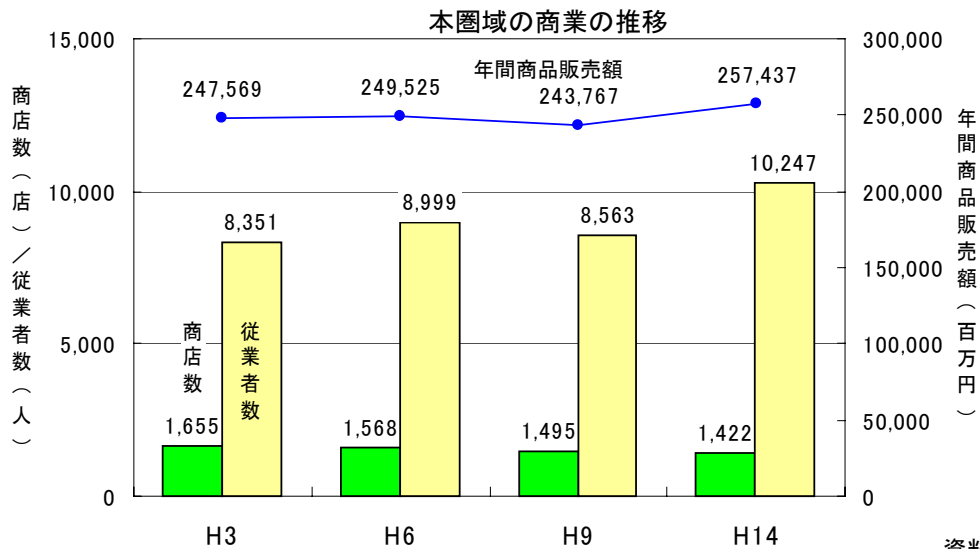
【農業】

平成 12 年における農家数は 2,459 戸、農業粗生産額は 3,421 百万円となっています。

昭和 60 年と比べると、農家数・農業粗生産額とも減少傾向にあることがうかがえます。



資料：国勢調査



1-3 観光資源

本圏域は、木曾川に代表される大小の河川や美濃山地の美しい山並みなど豊かな自然に囲まれた地域であり、古くは承久の乱などの舞台として登場し、また、日本最古の各務原飛行場を中心にして、航空産業や自動車産業、繊維産業等を基幹産業として発展してきました。

このような、自然・歴史・産業等を背景として、本圏域には以下に示すような幾多の観光資源があります。

●各務原市

名 称
名勝木曾川
飛騨木曾川国定公園
かかみがはら航空宇宙博物館
炉畑遺跡公園
各務野自然遺産の森
おがせ池(夏まつり、蓮の花)
県営各務原公園
日本ライン うぬまの森
桜まつり
日本ライン夏まつり
航空祭

●川島町

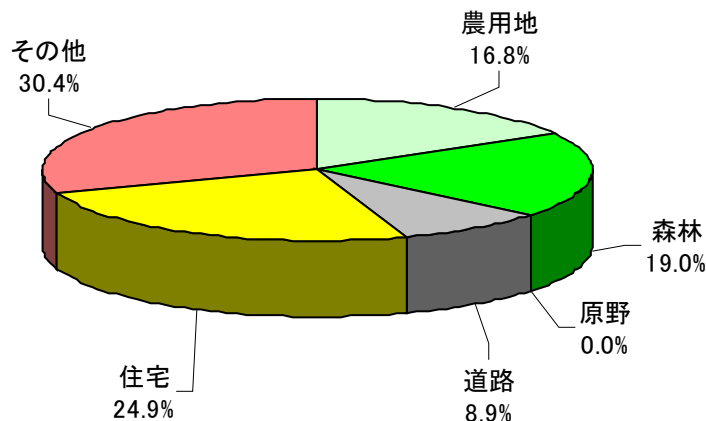
名 称
河川環境楽園
内藤記念くすり博物館
河跡湖
かわしま燦々夏まつり
かわしま川祭り

資料：市町調べ(平成 15 年)

1-4 土地利用及び生活基盤

1-4-1 土地利用

本圏域の総面積は 8,777ha で、土地利用の現状については、住宅 24.9%、森林 19.0%、農用地 16.8%、道路 8.9%の順となっており、豊かな自然と調和した都市機能としての土地利用がなされています。



資料：岐阜県土地対策室調べ（平成 12 年）

1-4-2 生活基盤

【交通基盤】

東海北陸自動車道の岐阜各務原 IC のほか一宮木曾川 IC に近く、これらの IC から全国の高速度道路等に接続します。

また、名古屋市や岐阜県庁、東海道新幹線岐阜羽島駅まで約 30 分、2005 年開港の中部新

国際空港にも名鉄特急で直結されます。

各務原市は、国道 21 号・坂祝バイパスなどの道路交通網や、鉄道・民間バス路線に加えコミュニティバスも整備されており、公共交通の利便性の高い都市だといえます。

川島町は、バス路線については 3 路線あるのみで、公共交通のサービス水準が低い状況といえます。

【生活環境施設】

平成 15 年度末見込みの水道普及率は、各務原市が 98.9%、川島町が 98.5%であり、ほぼ整備は完了しています。

平成 15 年度末見込みの公共下水道処理人口普及率は、各務原市 53.4%、川島町 64.3%で、各市町ともに、整備が進められています。

【公共公益施設】

学校や集会施設、図書館やプールなどの基礎的な社会資本についての整備は一巡し、現在は、耐震補強や改築などの整備を行っています。

また、現在、「公園都市」をめざし、水と緑の回廊づくりにもとづく重点整備を行っており、135 箇所公園などを整備済みです。

なお、医療施設については、各務原市に病院 4 箇所、それ以外に本圏域内に 86 箇所の一般診療所があります。

項 目	各務原市			川島町			圏域			
	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	
医療機関	病院	4	2	2	-	-	-	4	2	2
	一般診療所	82	5	77	4	1	3	86	6	80
	歯科診療所	51	-	51	2	-	2	53	-	53
就園施設	幼稚園	16	3	13	1	-	1	17	3	14
学校施設	小学校	16	16	-	1	1	-	17	17	-
	中学校	7	7	-	1	1	-	8	8	-
	高校	4	4	-	-	-	-	4	4	-
	大学	1	-	1	-	-	-	1	-	1
	短期大学	1	-	1	-	-	-	1	-	1
社会教育施設	図書館	1	1	-	1	1	-	2	2	-
	博物館	1	1	-	-	-	-	1	1	-
社会体育施設	体育館	1	1	-	-	-	-	1	1	-
	運動場	3	3	-	2	2	-	5	5	-
	プール	1	1	-	1	1	-	2	2	-
ごみ処理施設		2	2	-	-	-	-	2	2	-
火葬場		1	1	-	-	-	-	1	1	-
高齢者福祉施設	養護老人ホーム	1	1	-	-	-	-	1	1	-
	特別養護老人ホーム	4	-	4	1	-	1	5	-	5
	その他の高齢者福祉施設	17	2	15	2	1	1	19	3	16
障害者福祉施設	身体障害者福祉施設	1	1	-	-	-	-	1	1	-
	知的障害者福祉施設	4	1	3	-	-	-	4	1	3
	小規模授産所	4	1	3	1	1	-	5	2	3
児童福祉施設	保育所	15	13	2	2	-	2	17	13	4
	障害児福祉施設	3	3	-	-	-	-	3	3	-
	児童館(子ども館)	1	1	-	-	-	-	1	1	-
消防署施設		6	6	-	1	1	-	7	7	-
その他の施設	都市公園	133	133	-	2	2	-	135	135	-
	市町民会館・公民館	3	3	-	3	3	-	6	6	-

資料:市町調べ(平成15年)

1-5 日常生活圏

【通勤先】

平成 12 年の国勢調査結果によると、本圏域では、各務原市への通勤者が 52.7%を占め、次いで岐阜市 13.7%、名古屋市 7.5%となっています。

市町別にみると、各務原市では自市内で従業する者が 56.3%を占め、次いで岐阜市 14.1%、名古屋市 7.6%となっています。これに対し、川島町では自町内で従業する者が 40.5%であり、次いで一宮市 10.8%、岐阜市 8.8%、各務原市 6.4%、名古屋市 5.9%となっており、愛知県側との結びつきが強くなっています。

【通学先】 *15 歳以上

平成 12 年の国勢調査結果によると、本圏域は岐阜学区（高等学校）に属しており、本圏域の通学者の通学先は、各務原市 39.8%、岐阜市 29.0%であり、合わせて 68.8%を占めています。また、名古屋市への通学者が 12.0%と高い数値を示しています。

市町別にみると、各務原市では自市内で通学する者が 41.4%を占め、次いで岐阜市 29.1%、名古屋市 12.0%となっているのに対し、川島町では、岐阜市 27.4%、各務原市 16.6%、川島町 12.7%、名古屋市 11.9%、笠松町 7.0%の順になっています。

【買物状況】

平成 9 年の県買物動向調査によると、各務原市では自市内で買い物する割合が高く、他市町への流出については、岐阜市での買い物が若干みられる程度です。また、坂祝町からの流入が若干みられます。

これに対し、川島町では購買額の半分以上が愛知県への買い物となっており、愛知県側との結びつきが強くなっています。

【通院状況】

平成 11 年の厚生省（現、厚生労働省）の患者調査によると、各務原市では自市内で通院する割合が高く、他市町への通院については、岐阜市で若干みられる程度です。

これに対し、川島町では笠松町への通院が特に多く、次いで各務原市・岐阜市への通院が多くなっています。また、県外では、愛知県側への通院が多く、50%程度を占めています。

1-6 行財政状況

財政指標の分析結果、両市町とも、現在は、バランスの良い財政構造にあることが伺えます。

「経常収支比率」は、財政構造の弾力性を測定する比率として使われ、一般的には、都市にあつては75%を超えると弾力性を失いつつあると考えられています。全国的に硬直化が進んでいます。

「起債制限比率」は、標準的な財政規模に占める公債費の比率を表す指標で、20%以上になると起債が制限されます。両市町とも全国平均より低くなっており、特に川島町においては極めて低い比率となっています。

「財政力指数」は、財政の力を示す指標であり、1.00以上の団体は普通交付税が交付されない団体（財政が裕福な団体）となります。両市町とも全国平均を大きく上回っています。

表 構成市町の財政状況抜粋（平成14年度） 【資料：市町調べ】

平成14年度決算	各務原市	川島町	備考
財政力指数	0.857	0.631	0.41(全国平均)
経常収支比率	84.80%	82.30%	87.40%(全国平均)
起債制限比率	9.50%	3.60%	10.90%(全国平均)
市町税収入比率	44.30%	38.50%	34.40%(全国平均)
基金残高	15,780,823千円	1,655,572千円	全会計
地方債残高	54,338,799千円	5,383,749千円	
住民一人あたり基金残高	118千円	163千円	
住民一人あたり地方債残高	405千円	529千円	
(住民基本台帳人口)	(134,058人)	(10,177人)	H15.3.31現在
標準税収入額等	20,116,029千円	1,818,755千円	
標準財政規模	22,024,305千円	2,224,686千円	